

2017年1月17日

# 国立病院機構 別府医療センター

## 小児科・NICU 2016年 年報



## 別府医療センター 小児科

### 1. 2016 年 小児科入院統計

1) 入院数と転帰	4
2) 月別の入院数	4
3) 時間帯別の入院数	4
4) 年齢別の入院数	5
5) 入院数の年次推移	5
6) 入院患者の疾病区分	6
7) 救急車の受入数	7
8) 人工呼吸管理症例	7
9) 手術症例	7
10) 死亡症例	8

### 2. 2016 年 小児科外来統計

1) 外来患者数	8
2) 外来患者数の年次推移	8
3) 紹介患者数の年次推移	8
4) 紹介元医療施設と紹介患者数	9

## NICU（新生児集中治療室）

### 3. 2016年NICU入院統計

- 1) 入院、転帰・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 2) 在胎週数、出生体重・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 3) 呼吸管理症例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 4) 手術症例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 5) 入院数等の年次推移・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 6) Category別の推移・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 7) 他院への転院症例・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 8) 新生児用救急車の出動形態・・・・・・・・・・・・ 13
- 9) 新生児用救急車の出動先・・・・・・・・・・・・ 13
- 10) 死亡症例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

### 4. 研究業績・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

### 5. 総評・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

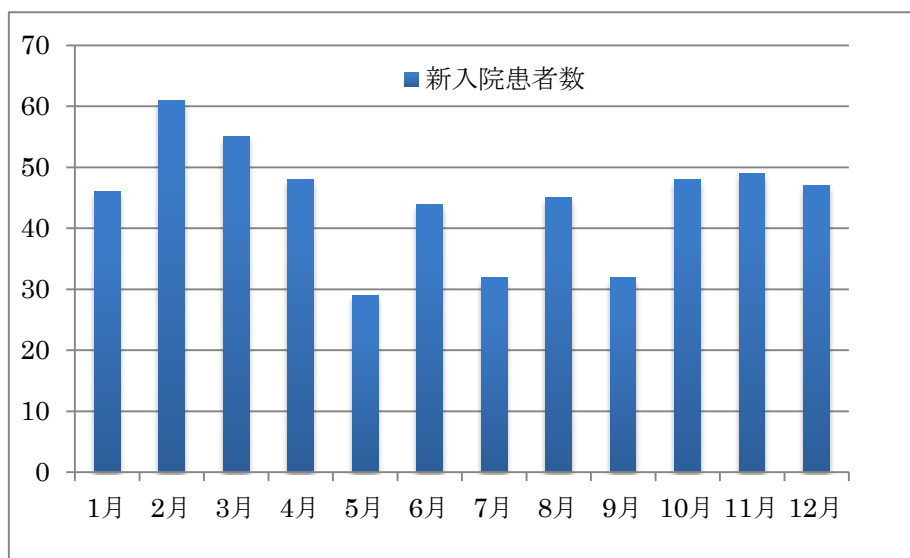
- 1) 2016年の所感
- 2) 2017年の目標

## 1. 2016年 小児科入院統計

### 1) 入院数と転帰

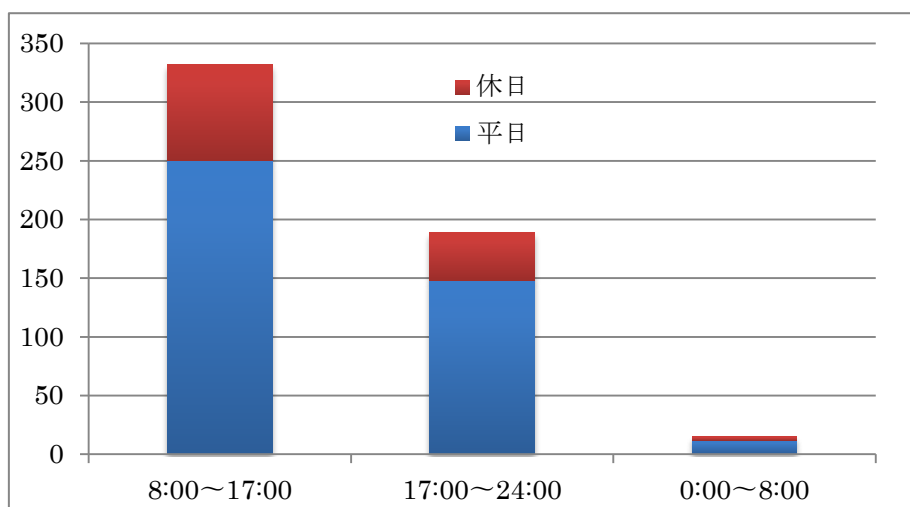
入院		死亡
入院総数	683	0
小児科	536 (78%)	0
NICU	147 (22%)	0
生存退院	683	死亡退院 0 (剖検数 0)

### 2) 月別の入院数



※ NICU 入院患者は除く

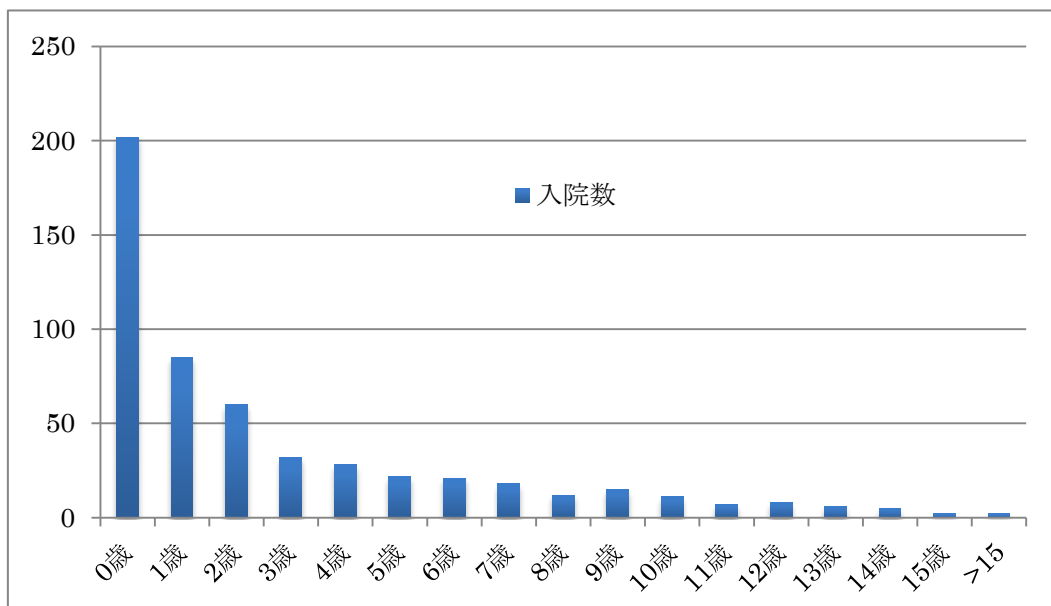
### 3) 時間帯別の入院数



8:00~17:00 332人 (62%)、17:00~24:00 189人 (35%)、0:00~8:00 15人 (3%)

※ NICU 入院患者は除く

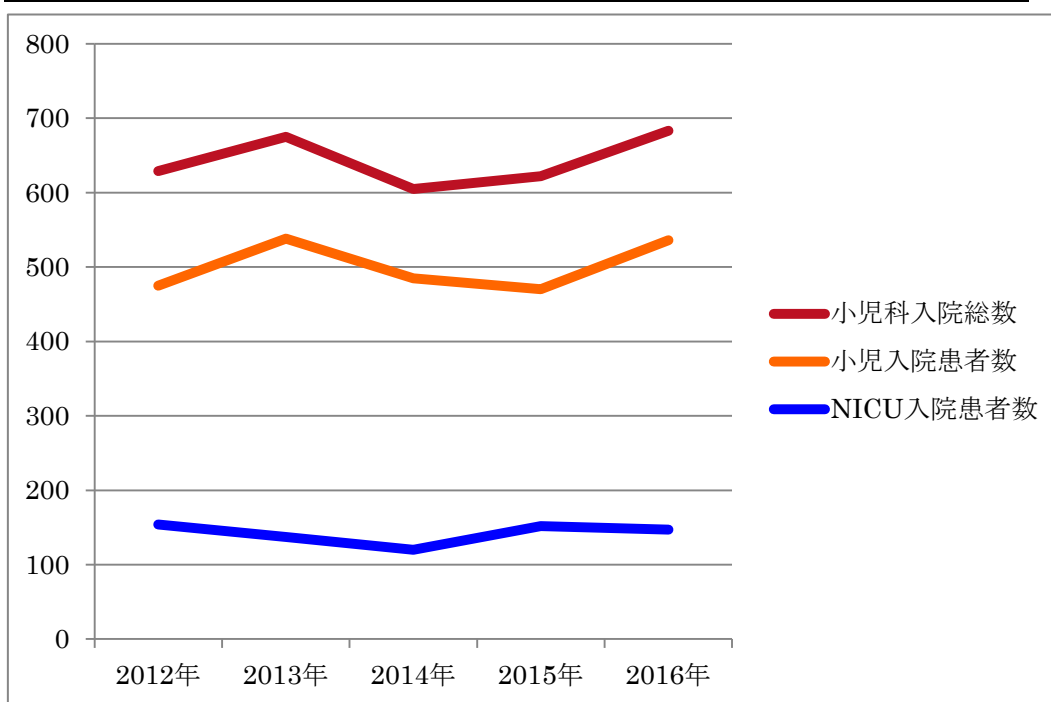
4) 年齢別の入院数



※ NICU 入院患者は除く

5) 入院数の年次推移

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
小児入院患者数	475	538	485	470	536
NICU 入院患者数	154	137	120	153	147
小児科入院総数	629	675	605	623	683



6) 入院患者の疾病区分

疾病区分	入院数	主な疾患内訳	症例数
感染症	383	RSウイルス感染症	68
		急性上気道炎(咽頭・扁桃炎含む)	38
		急性肺炎	36
		急性気管支炎・細気管支炎	34
		ヒトメタニューモウイルス感染症	30
		肺炎マイコプラズマ感染症	26
		尿路感染症	17
		ロタウイルス胃腸炎	15
		インフルエンザ(A型・B型)	15
		その他の原因による急性胃腸炎	15
		アデノウイルス感染症	11
		突発性発疹症	9
		ヒトメタニューモウイルス感染症	8
		アデノウイルス感染症	7
		ブドウ球菌性皮膚熱傷様症候群	6
		無菌性髄膜炎	5
		新生児感染症	5
		敗血症	5
		ノロウイルス胃腸炎	4
		頸部リンパ節炎	4
		伝染性単核症	3
流行性耳下腺炎	3		
蜂窩織炎	3		
その他	16		
神経・精神疾患	44	熱性けいれん	22
		てんかん	8
		けいれん重積	6
		その他の無熱性けいれん	4
		胃腸炎関連けいれん	2
		急性脳炎	1
		Bell麻痺	1
アレルギー性疾患	23	気管支喘息	13
		Henoch-Schönlein紫斑病	4
		アナフィラキシーショック	3
		アトピー性皮膚炎	2
		薬剤アレルギー	1
川崎病・自己免疫/炎症性疾患	22	川崎病	21
		組織球形壊死性リンパ節炎	1
腎・泌尿器疾患	1	急性糸球体腎炎	1
内分泌・代謝性疾患	2	アセトン血性嘔吐症	1
		甲状腺機能低下症	1
消化器疾患	17	腸重積症	8
		急性虫垂炎	4
		急性膵炎	1
		急性肝炎	1
		その他	3
血液・悪性腫瘍	8	特発性好中球減少症	2
		特発性血小板減少性紫斑病	1
		遺伝性球状赤血球症	1
		遺伝性橢円赤血球症	1
		その他	3
循環器疾患	2	発作性上室性頻拍	1
		高血圧症	1
事故・外傷・中毒	18	外傷性頭蓋内出血	6
		異物誤飲	4
		熱傷	2
		脳震盪	2
		溺水	1
		その他	3
その他	16	体重増加不良	3
		喉頭軟化症	1
		毒素性ショック症候群	1
		卵巣奇形腫・卵巣茎捻転	1
		その他	10
計	536		536

※ NICU 入院患者は除く

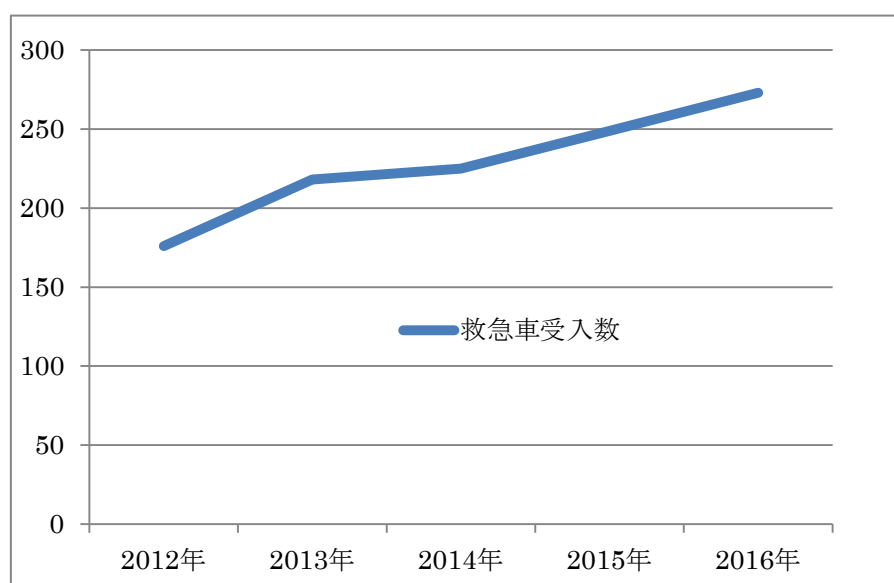
※ 診断名が重複する場合は入院主病名を選択した

7) 救急車の受入数

月別受入数（小児科）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
入院管理	6	10	5	4	7	4	2	7	4	4	12	9	74
外来管理	19	25	15	11	11	11	23	22	17	16	15	14	199
計	25	35	20	15	18	15	25	29	21	20	27	23	273

受入数の年次推移



8) 人工呼吸管理症例

年齢	診断名
7歳	多発頭蓋骨骨折 気脳症
8歳	毒素性ショック症候群

9) 手術症例

診断	術式	例数	手術担当科
急性虫垂炎	虫垂切除術	1	消化器外科
卵巣奇形腫	卵巣腫瘍摘出術	1	産婦人科
悪性リンパ腫	前額部皮下腫瘍切除術	1	形成外科
精巣捻転	精巣摘出術	1	泌尿器科
下唇粘液嚢胞	嚢胞切除術	1	歯科口腔外科
多合指症	余剰指切除術	1	形成外科
化膿性股関節炎	関節内搔爬術	1	整形外科
腸重積	空気整復術	8	小児科

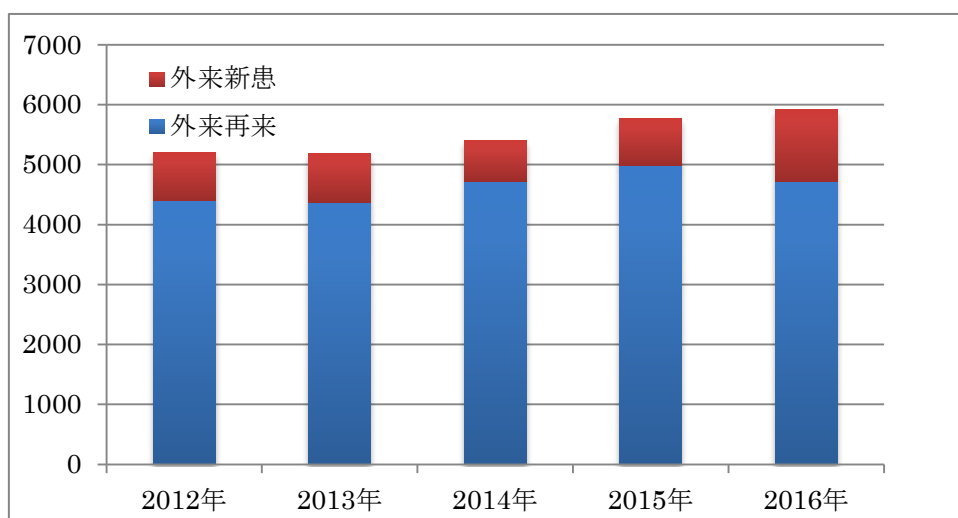
10) 死亡症例 なし

## 2. 2016年 小児科外来統計

### 1) 外来患者数

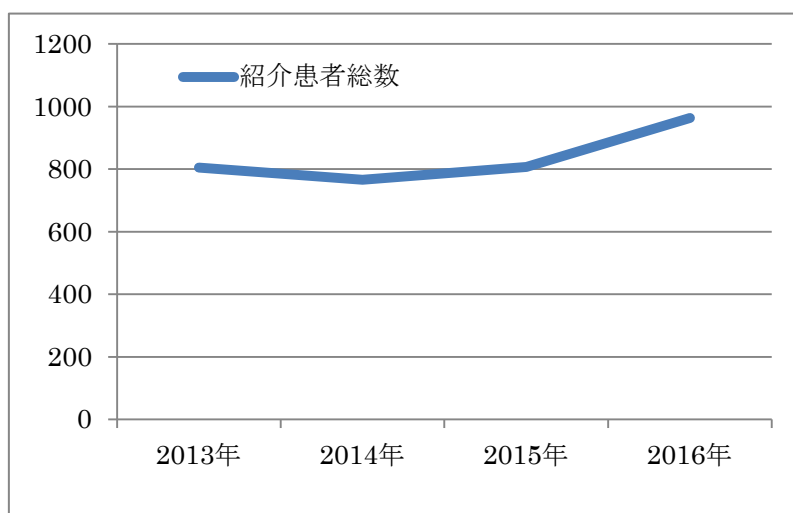
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
新規外来患者数	103	118	105	73	87	99	105	114	93	107	105	87	1196
外来患者総数	533	525	618	416	402	447	427	551	439	488	549	520	5915

### 2) 外来患者数の年次推移



### 3) 紹介患者数の年次推移

	2013年	2014年	2015年	2016年
紹介患者総数	805	766	807	964





4) 紹介元医療施設と紹介患者数

地域	地域別紹介患者数	紹介元医療施設	紹介患者数	
大分県	別府市	702	松本小児科医院	310
			松井小児科医院	124
			古城小児科医院	87
			別府市夜間こども診療所	59
			衛藤小児科医院	36
			あおい産婦人科	31
			河野小児科医院	15
			岩永レディースクリニック	13
			矢田こどもクリニック	6
			松岡産婦人科医院	5
			別府発達医療センター	5
			さとう小児科医院	3
			西別府病院	2
		その他	6	
	日出町	122	てしまこどもの杜クリニック	65
			矢野小児科医院	56
			岡田内科クリニック	1
	杵築市	49	みやうちウィメンズクリニック	20
			伊藤小児科循環器科医院	12
			くりやまレディースクリニック	6
			友岡医院	6
			その他	5
	宇佐市	27	宇佐レディースクリニック	19
			佐藤第二病院	3
			その他	5
	大分市	18	大分こども病院	8
			大分県立病院	4
大分市医師会立アルメイダ病院			3	
その他			3	
中津市	7	中津市立中津市民病院	4	
		その他	3	
国東市	10	国東市民病院	7	
		その他	3	
東国東郡	3	姫島村国民健康保険診療所	3	
由布市	7	大分大学医学部付属病院	3	
		その他	4	
豊後高田市	5	高田中央病院	5	
福岡県	4		4	
その他県外	10		10	
計			964	

※ 新生児搬送を除いた小児科紹介患者数

### 3. 2016年NICU入院統計

#### 1) 入院、転帰

##### 入院と転帰

	入院		死亡	
入院総数	147		0	0%
院内出生	112	76%	0	
院外出生	35	24%	0	
(再入院)	(0)		(0)	
生存退院	147		死亡退院	0

#### 2) 在胎週数、出生体重

##### 在胎週数

週数 (wks)	全入院		院内		院外		院外出生児 の割合
	生存	死亡	生存	死亡	生存	死亡	
26	0	0	0	0	0	0	
27	1	0	1	0	0	0	0%
28	0	0	0	0	0	0	
29	2	0	2	0	0	0	0%
30	3	0	3	0	0	0	0%
31	6	0	6	0	0	0	0%
32	6	0	6	0	0	0	0%
33	6	0	6	0	0	0	0%
34	14	0	13	0	1	0	7%
35	6	0	2	0	4	0	67%
36	17	0	12	0	5	0	29%
37	41	0	37	0	4	0	10%
38	19	0	13	0	6	0	32%
39	12	0	6	0	6	0	50%
40	12	0	5	0	7	0	58%
41	2	0	0	0	2	0	100%
42	0	0	0	0	0	0	
計	147	0	112	0	35	0	24%

### 出生体重

出生体重 (g)	全入院		院内		院外		院外出生児 の割合
	生存	死亡	生存	死亡	生存	死亡	
500-749	0	0	0	0	0	0	
750-999	1	0	1	0	0	0	0%
1000-1499	9	0	9	0	0	0	0%
1500-1999	20	0	19	0	1	0	5%
2000-2499	34	0	29	0	5	0	15%
2500-2999	45	0	30	0	15	0	33%
3000-3499	29	0	20	0	9	0	31%
3500-	9	0	4	0	5	0	56%
計	147	0	112	0	35	0	24%

### 3) 呼吸管理症例

	2011	2012	2013	2014	2015	2016
呼吸管理総数	21	28	18	15	20	26
IMV/HFV 単独	3	2	2	2	2	1
IMV/HFV + nasal CPAP	7	9	2	5	7	3
nasal CPAP 単独	11	17	14	8	11	22

IMV ; Intermittent Mandatory Ventilation (間欠的強制換気)

HFV ; High Frequency Ventilation (高頻度人工換気)

nasal CPAP ; nasal Continuous Positive Airway Pressure (経鼻的持続陽圧呼吸)

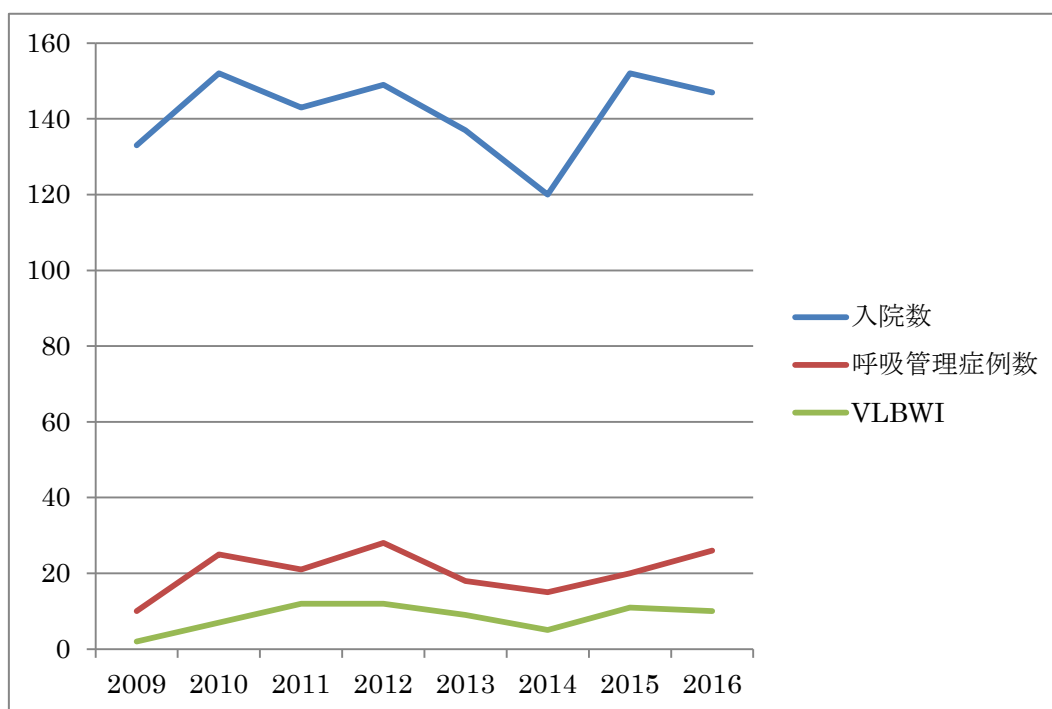
### 4) 手術症例

なし

### 5) 入院数等の年次推移

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
入院数	152	143	149	137	120	152	147
呼吸管理症例数	25	21	28	18	15	20	26
VLBWI	7	12	12	9	5	11	10

VLBWI ; Very Low Birth Weight Infant (極低出生体重児)



VLBWI ; Very Low Birth Weight Infant (極低出生体重児)

#### 6) Category 別の推移

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
染色体異常	2	2	1	1	2	5	1
奇形症候群	3	5	10	2	0	6	7
先天性心疾患	9	7	3	7	9	6	1
外科的疾患	1	2	1	1	3	2	1
VLBWI	7	12	11	9	5	10	10
LBWI	62	58	72	51	52	64	52
新生児仮死	15	5	2	9	7	4	5
頭蓋内出血	0	0	0	0	0	0	0
神経疾患	0	1	1	0	0	0	0
感染症	5	4	1	3	1	2	3
呼吸障害	5	12	11	9	11	10	13
Low Risk	29	29	27	27	23	31	38
その他	14	6	9	18	7	12	16
再入院	9	3	5	0	0	1	0
計	161	146	154	137	120	153	147

VLBWI ; Very Low Birth Weight Infant (極低出生体重児)

LBWI ; Low Birth Weight Infant (低出生体重児)

7) 他院への転院症例

診断	出生場所	在胎週数	出生体重	転院先
腸回転異常症、絞扼性イレウス	院外	40	2552	大分県立病院
Trisomy 21、動脈管開存症	院内	37	2522	安城更生病院
新生児遷延性肺高血圧症	院外	38	3048	大分県立病院
脊髄髄膜瘤、LBWI	院内	37	1780	大分大学病院

LBWI ; Low Birth Weight Infant (低出生体重児)

8) 新生児用救急車の出動形態

	出動回数	搬送入院	立会いのみ	当院から転院	三角搬送
2010	50	40	1	9	0
2011	46	32	4	9	1
2012	33	25	4	3	1
2013	26	20	1	5	0
2014	36	25	3	6	2
2015	36	29	2	5	0
2016	34	26	1	4	3

9) 新生児用救急車の出動先 (産科医療施設)

地域	出生場所	回数
別府市	松岡産婦人科	1
	岩永レディースクリニック	6
	あおい産婦人科	8
杵築市	くりやまレディースクリニック	1
	みやうちウイメンズクリニック	13
宇佐市	宇佐レディースクリニック	1
	佐藤レディースクリニック	0
計		30

10) 死亡症例

なし

#### 4. 研究業績

##### 学会発表・講演

演題名	発表者	学会名	日付	場所
小児肺炎マイコプラズマ下気道感染症に対する抗菌薬選択とその有効性の比較	梯公彦、柴田裕介、二宮崇仁 佐藤大祐、古賀寛史	第 98 回日本小児科学会 大分地方会	2016.3.6	大分
明らかな感染巣なく Toxic shock syndrome を発症した 8 歳女児例	梯公彦、東加奈子、秋本竜矢 佐藤大祐、古賀寛史	第 99 回日本小児科学会 大分地方会	2016.7.3	大分
口唇裂口蓋裂の合併奇形に関する国内疫学調査	古賀寛史、飯田浩一、前田知己 高橋瑞穂、福島直喜、合志光史	第 52 回日本周産期・ 新生児医学会	2016.7.16	富山
急速な死に至った <i>Streptococcus gallolyticus</i> subsp. <i>pasteurianus</i> による新生児敗血症の一例	古賀寛史	第 61 回日本新生児 成育医学会	2016.12.1	大阪

##### 論文・著書等

題名	筆者	誌名	年	巻(号)	ページ
別府医療センターにおける NP の研修と成果	古賀寛史 廣田真理、菅谷愛美	小児看護	2016	39 (12)	1590-5
小児肺炎マイコプラズマ下気道感染症における抗菌薬の臨床的有効性	梯公彦、古賀寛史	小児科臨床			(in press)
<i>Streptococcus gallolyticus</i> 敗血症の新生児死亡例	東加奈子、古賀寛史	日本小児科学会雑誌			(in press)
日本における小児嚢胞性線維症の臨床的特徴	佐藤大祐、古賀寛史	日本小児科学会雑誌			(in press)
Clinical characteristics of urethral prolapse in Japanese children	Ninomiya T, Koga H	Pediatrics International			(E-pub ahead of print)
Epidemiologic research on malformations associated with cleft lip and cleft palate in Japan	Koga H, Iida K Maeda T, Takahashi M Fukushima N, Goshi T	PLoS One	2016;11:e0149773		doi:10.1371/journal.pone.0149773

## 5. 総評

### 1) 2016年の所感

地域住民の方々、地域の産科・小児科を始め、多くの医療機関の皆様のご支援のおかげで一年間の診療を全うすることができました。心より感謝申し上げます。最近数年間で自治体の整備基金等を活用し、診療のハード面、ソフト面で一定の改善を得ました。これまでと同様に今後も地域の皆様に納得していただける医療を提供すること、診療研究業績を残すこと、スタッフの仕事と生活の調和を保つことのバランス感覚が求められます。毎年この年報を作成しながら、そのようなバランスを取りつつ皆様に評価していただける実績を残せたかどうか自省しております。

【臨床面】最近5年間で入院患者総数は600～700人と大きな動きはありませんが、紹介患者数、外来患者数、救急搬送の受入数は増加しつつあります。小児入院患者の疾病区分は、予防接種の増加により細菌感染症が減少傾向にある一方、ウイルス感染症を中心とした感染症が全体の71%と最も多い割合を占めていました。川崎病や重度外傷の発生状況に変化はありませんでした。また、新生児・未熟児の診療にも大きな変化はありませんでした。小児、新生児ともに死亡例がなかったことに安堵しました。昨年より小児診療看護師（ナースプラクティショナー）を一名配置できたことにより在宅移行支援が行いやすくなり、在宅訪問看護の件数も少しずつ増えてきています。

【研究面】興味深いリサーチクエスションを探すだけでなく、如何にしてスタッフが臨床研究のモチベーションを持てるように促すかという点で臨床研究指導の難しさを感じています。そのような中で少しずつでも各スタッフの業績として研究成果を残していきたいと考えます。小児科の新専門医制度では認定要件に論文作成が求められるため、その指導も責務と考えます。

【教育面】九州大学小児科の関連施設ですが、大分大学小児科から小児神経外来、小児内分泌外来の診療支援を、福岡大学から小児腎臓外来の診療支援をいただいております。毎月2回の乳幼児健診、毎月5回の別府市夜間こども診療に伺っており、一次診療が経験できます。院内では新生児から小児疾患までの二次医療を経験できます。毎年、当科での臨床研修を経て小児科を選択してくれる研修医がいてくれることはうれしい限りです。

### 2) 2017年の目標

これまでと同様に地域の小児医療の要請に応えられるよう尽力していきます。当科は2012年に現行の体制となって一区切りとなる5年が経過しました。今後は新たな方向へ進んでいくべき転換期が近づいているのかもしれませんが。

近隣の小児・産科施設のスタッフの方々には日頃よりご支援、ご配慮をいただき感謝しております。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

国立病院機構 別府医療センター 小児科 古賀寛史

E-mail: [sakuraliberty@beppu2.hosp.go.jp](mailto:sakuraliberty@beppu2.hosp.go.jp)

医療機関からの外来受診、入院、新生児搬送などのご依頼は

(平日、日勤帯) TEL 0977-67-1111 → 小児科外来(小児)、内線 8126(古賀直通)(新生児搬送)

(夜間休日) TEL 0977-67-1111(代表経由でNICU当直医)まで よろしくお願い致します。